

# 日本ナレッジマネジメント学会 第17回年次大会 報告3

## テーマ 連結化から始める知識創造 —ホームページの戦略的活用

### 内容

- ・ 報告の目的＝過去と今後の知識創造活動を連結化から説明
- ・ 事例の説明／ありたい姿と現状のギャップ(問題)
- ・ 連結化活動＝HP活動の説明／得られた知見／新たな課題

[hirofumi.abe@gmail.com](mailto:hirofumi.abe@gmail.com)

日時 2013年3月8日(土) 14:50～15:30  
場所 横浜国立大学 経営学部講義棟1号館(N3-5)1階106教室  
講師 安部 博文 Abe Hirofumi 博士(経済学)  
電気通信大学 産学官連携センター IM／非常勤講師  
法政大学大学院政策創造研究科兼任講師

# 報告の目的

▼知識創造理論＝SECIモデルは知識社会における組織活動を説明するのに優れたツールである。

▼このツールを使って電通大のベンチャー支援活動を事例として取り上げた。理由。

共同化-表出化の活動は、各々の時と場で行われている。

しかし活動の全体像が見えにくい。そのため学生や経営者に企業家精神を伝える機会を活かしきれていないという問題がある。

▼つまり連結化に弱点がある。そこでベンチャー支援活動のHP（連結化の象徴）を強化すれば、この問題を克服できると仮説を立て、実行した。

▼以下はSECIモデルをベンチャー支援の問題解決に応用した報告である。また気づき、新たな課題についても報告する。

# 報告の構成

現状の説明＋SECIモデルの解説

ありたい姿

ありたい姿と現状のギャップ(問題)

問題解法～HPの戦略的活用

投入資源とリターン

新たな課題

まとめ

# 現状の説明 + SECIモデルの解説

この報告では、SECIモデルを連結化から始める（連結化を強化する）事例として電気通信大学（以下、UEC）のベンチャー支援活動を取り上げた。

## 1 UECにおけるベンチャー支援の目的

UECは、総合コミュニケーション科学の創造・発展により21世紀の社会と世界への貢献を目指す。

UECの研究開発の成果を生かした大学発ベンチャーの創出、また、地域企業との連携による新産業・新事業の創出によって、地域経済への貢献を目指す。

（出所 UECのベンチャー支援部門の関連文書）

# 現状の説明＋SECIモデルの解説

## 2 UECのベンチャー支援の具体的内容

- 2-1 インキュベーション施設で電通大発ベンチャーを育成。
- 2-2 ベンチャービジネス概論(学部3年生),  
ベンチャービジネス特論(大学院1年)の2講義。
- 2-3 学外でのビジネスプランコンテストへのチャレンジ。
- 2-4 アイディアコンテスト(6月4日に実施)。
- 2-5 ベンチャー創出と育成を目的とする新産業創造基盤  
技術研究(光・電子デバイス, ロボティクス, 情報)。
- 2-6 ベンチャー・事業化シーズ創出支援事業(ファンド)。

# 現状の説明＋SECIモデルの解説

基本理論は知識創造理論(野中他)。

知識創造理論の中核が暗黙知⇔形式知の変換に着目した**SECI**モデル。



# ありたい姿

UECのベンチャー支援の全体像を一望できる場がある。

加えて、  
電通大の現役学生が社会で働く卒業生の経験談を知り、勉学意欲が刺激される場。

電通大の学生・教職員やインキュ経営者が、ビジネスプランコンテストやセミナー情報に触れられる場。

# ありたい姿と現状のギャップ(問題)

**ありたい姿** いつでも・どこからでも電通大ベンチャーの情報を俯瞰的に見る場がある。

**現状** コンテンツはある。しかし、一望できない。ベンチャー情報を学生やインキュ経営者が知る機会、UEC情報を学外の方が知る機会が弱い → 暗黙知の状態。

**問題** 「学内、学外」と「電通大発ベンチャー企業経営者や学生」の知が隔離状態。〈知の交換〉による〈新たな知の創造〉が起きにくい。



# 問題解決法 連結化が弱い→HPを活用!

連結化が弱体であることが問題の原因。解決するため、

- 1 各コンテンツの内容を表出化し、
- 2 HPで一望できるようにする。

## 共同化 **S**ocialization

2-1から2-6 各々の場では  
Face to Faceあり。

## 表出化 **E**xternalization

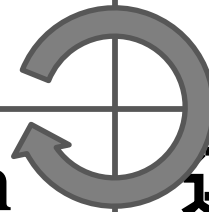
2-1から2-6 写真と文章  
で読めば分かるようにする。

## 内面化 **I**nternalization

HP情報から気づきや  
意思決定の材料を得る。

## 連結化 **C**ombination

<http://www.uecincu.com/index.html>



# 投入資源とリターン

HP強化作戦(仮説実証活動)を2013年11月からスタート。

**投入資源** HP作成の外注コスト。  
協力者の時間(コスト)。  
IMの作業時間(コスト)。

**リターン** HPの強化は進んだ。  
2014年度前期のVB論で効果を見る。  
あとはまだ見えていない。  
仮説の検証は道半ば。

# 新たな課題

1. UECのベンチャー支援の諸活動,
  - 2-1 インキュベーション施設で電通大発ベンチャーを育成。
  - 2-2 VB概論(学部3年生), VB特論(大学院1年)の2講義。
  - 2-3 学外でのBPコンテストへのチャレンジ。
  - 2-4 アイディアコンテスト(6月4日)。
  - 2-5 新産業創造基盤技術研究情報。
  - 2-6 ベンチャー・事業化シーズ創出支援事業情報。をバランス良くHPに表出するのは想像以上に手間がかかる。  
→ 組織で取り組む必要がある。
2. 卒業生インタビュー, 外部情報の表出化も手間がかかる仕事。  
→ 実務を進めながら簡単にHP化する方法の開拓が必要。
3. 連結化した結果(HP)を多くの人に知らせる工夫が必要。

# まとめ

SECIモデルは実際の活動(事例はUECのベンチャー活動)の改善に有用であることが分かった。同時に・・・以下次頁。

コスト

## 共同化 **S**ocialization

2-1から2-6 各々の場では  
Face to Faceあり。

## 表出化 **E**xternalization

2-1から2-6 写真と文章  
で読めば分かるようにする。

コスト

## 内面化 **I**nternalization

HP情報から気づきや  
意思決定の材料を得る。

## 連結化 **C**ombination

<http://www.uecincu.com/index.html>

コスト

# まとめ

何らかの活動を「見える化」するという点でHPは非常に効果的なツールである。

しかし、HP作成の負担は「本業」とは異なるもの。そのため実務を表出化・連結化するには、実務とは別のエネルギーとコストがかかる。

さらにSECIモデルを目的達成（今回の場合は活動の一望化）のためにスパイラルアップさせるには、主体者の意志力と継続力が必要になる。

HPの活動をSECIモデルで検証した結果、SECIモデルの回転には、コストと意志力など暗黙知的な要素が非常に大きく関わっていることが分かる。（それだけにHPを充実させている企業・団体はHPを戦略活動の一環として組織活動に組み込んでいることが理解できる。）

# 報告者略歴

1953年，大分県生まれ。大分大学教育学部卒業。

20代 小中学生対象の学習塾を創業・経営。

30代 事業内容を中小企業診断士事務所に変更。

地元経済誌の取材記者・編集者。

40代 公的支援機関で相談窓口を担当。1,500の個人・組織の経営革新を支援。延べ15,000件。IPO2社。

50代 経営革新支援の支援と研究。2010年，博士（経済学）の学位取得。活動テーマは個人と組織の変革促進。

2011年，電通大IM，ベンチャービジネス論担当。

活動の3本柱 教育，編集，音楽（朝バッハの曲を練習する）。

好きなこと インタビュー。包丁研ぎ。自転車。手書きで字を書く。

YouTube。Amazon。